

2017年1月21日

「報告書～再発防止策の提言～」をふまえた“相模原事件の再発防止策”について
〔要旨〕

公益社団法人 日本精神神経学会
法委員会委員長 富田三樹生

神奈川県相模原市の障害者支援施設において発生した大量殺傷事件（以下、事件）を受けて厚生労働省が設置した「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チーム」（以下、検討チーム）は、2016年12月8日に「報告書～再発防止策の提言～」（以下、報告書）を発表しました。本学会当委員会は、先の2016年8月29日に「相模原市の障害者支援施設における事件とその後の動向に対する見解」を公表していますが、今般の報告書をふまえ、新しい見解を表明いたします。

まず、最初に確認しておきます。事件の再発防止策として何らかの制度の変更を行うには、事件を防げなかった要因が現行制度の不備にあることが明らかにされなければなりません。しかし現時点では精神鑑定を含む司法手続きが進行中であり、事件の全容が解明されてはいません。この段階で再発防止を目的とした制度の変更を進めることには慎重を期すべきです。

事件は、現時点で断定はできないものの、何らかの精神症状が部分的ないしは修飾的にせよ影響を与えている可能性があり、その限りにおいて精神保健医療の問題です。しかし、事件の本質が、容疑者の思想傾向と対象を障害のある人に限定していることから見て、障がいがある人への差別・憎悪にもとづくヘイトクライム（大量殺傷事件）であると捉えなければなりません。したがって再発防止策を講じるには、どのようにして私たちの社会がヘイトクライムを防ぐのか、またその温床となる差別や偏見、そして極端な優生思想を克服して共生社会を築くのか、という根源的な観点から全体的に検討しなければなりません。

しかし報告書では、事件を防げなかった要因を精神保健医療体制、なかでも措置入院の解除時の対応の不備、および精神科医の大麻・薬物問題についての専門的技術・知識の不足、という点に絞り込んで具体策を提言しています。

このような焦点化だけで再発防止策が検討されるなら、事件の本質を見誤らせることにつながりかねず、その後の施策を偏った方向に誘導する危険性があります。この事件では、早い段階から再発防止対策が精神保健医療マターとされて厚生労働省の管轄となり、同省内に設置された検討チームの構成員の半数近くが精神科医となった経緯があります。こうした構造的、機能的限界が報告書に表れていると言わざるを得ません。

また、従来から警察と精神保健医療のどちらが主たる対応をすべきかの判断が困難な、いわゆるグレーゾーンケースの問題が指摘されており、事件の容疑者もそれであった可能性があります。しかし報告書では、グレーゾーンケースにおける警察と精神保健医療との

協力と連携のあり方等について、踏み込んだ提言はされませんでした。

その一方で報告書では、措置入院における措置権者（都道府県知事等）による退院の一律管理の制度化という極めて重大な提言がなされています。しかし報告書を含めて措置入院制度についての現状把握は、このような重大な制度変更の根拠となるほど深いレベルに達していません。新規措置入院の判断（入口問題）における自治体間格差が大きいことは従来から知られていますが、その要因の本格的分析までは行われていません。一方、措置入院者の平均在院日数（出口問題）は年々短縮してきて、「病院から地域へ」という近年の精神科医療改革の流れが措置入院者にもある程度及んでいと推測することは可能です。この方向性に水を差すような制度変更は許されません。しかしながら、報告書に提言された措置入院者の退院を措置権者が一律管理する仕組みのいくつかは、実務上の困難等によって措置入院期間を不当に延長させる要素となる可能性があります。

私たちが真っ先にしなければならないことは、人権擁護の観点からも非常にデリケートな制度である措置入院制度を拙速に変更することではなく、各自治体の措置入院に関するあらゆる段階についての量と質の詳細な実態調査を行うことです。そして調査結果の幅広い観点からの分析に基づき、国と措置権者が責任を負う医療供給体制としての措置入院制度の改革ビジョンが提示される必要があります。

措置入院制度が多くの問題を抱えていることは従来から指摘されてきました。したがって、この事件が起きたかどうかにかかわらず、制度全体の問題点の洗い出しと、それに基づいた改革が行われなければならないことは間違いありません。ただし、この事件の再発防止策にことさら結びつけて拙速にそれをしようとするれば、制度を取り繕うだけの対策に終わるだけでなく、制度全体がバランスを欠いて大きく歪められる恐れがあります。

私たち精神科医療保健福祉の関係者に対して、この制度をどのような理念に基づきどのような姿に近づけようとしているのかが問われているのです。

以上